

AEON PRESS



PROFILE

千田 潤一 氏 (ちだじゅんいち)

「英語トレーニングのICC」代表。TOEICテスト説明会等で「使える英語の効果的習得法」の講演を実施。合計4800回以上、受講者は20万人を越す。NHKTVの「英語でしゃべらナイト」や「めざせ!会社の星」にも出演。50万部突破のベストセラー「英会話・ぜったい・音読」等、著書多数。

音読で使える英語をモノにしよう!

みなさんは英語を学ぶとき、音読していますか?英語をモノにした人の多くが、音読しています。一方、英語で苦しんでいる人の多くは音読をしていません。

●なぜ音読なのか?

言葉は音です。音である言葉を声も出さずに学ぶことは不自然ですし、声を出さない英語学習は無意味です。音読した英語から順に聴こえるようになり、聴こえた英語から順に話せるようになります。音読すらできない英語は話せません。だから音読なのです。

●音読のやり方は?

いきなり音読すると失敗します。第1ステップは、CD等で発音を確認すること。第2ステップは、訳を見て意味を確認すること。第3ステップは、音読した英文の中から使ってみたい表現を選び、音読しながら書くこと。音読筆写での刷り込みです。第4ステップは、その表現を使うこと。この使うということが一番大切です。

英語学習の最終目標は、覚えることではありません。覚えた英語を使って、通じたという喜びを体験し、その喜びを次の学びのエネルギーにつなげ、世界中のよりたくさんの人たちと、より豊かなコミュニケーションができるようになることだと思います。

●音読の回数?

最低でも、5回は音読しましょう。1回だと進歩を体感できません。2回~3回と回を重ねるごとに、より滑らかに音読できるようになり進歩が体感できます。

私は、最低5回音読します。進歩が見えるからです。進歩が見えると元気が出ます。元気が出ると続きます。続くと体に変化を感じ「できるぞ!」という自信と希望が湧いてきます。

●音読でやる気アップ!

英語を学ぶとき集中できないことはありませんか?音読すると集中できます。集中しないと音読できないからです。音読しながら書くと、もっと集中できます。口耳指目そして、心がフル回転するからです。集中するとやる気がアップし、どんどん元気が出てきます。皆さんも音読で元気をいっぱい引き出し、使える英語をモノにしてください。

新しい年が皆さんにとって、やる気に満ちた1年になるよう願っています。

~すべては生徒様の上達のために~

“おもてなし英語”を学ぶ新講座

「英語ボランティアガイド 初級コース」を2015年10月より開講

~英語を通じて外国人を案内するボランティアガイド活動を促進~

イーオン各教室では、外国人を案内するための英会話力やおもてなしの心を学ぶための新コース「英語ボランティアガイド 初級コース」を、2015年10月より開講しました。(※一部スクールを除く)

イーオンでは、訪日外国人旅行者をフリープランで案内できる通訳ガイドに必要な上級レベルの英語力を修得するための講座として、特定非営利活動法人TOKYO FREE GUIDE(東京都中央区、理事長:川本佐奈恵)と提携した「ボランティア通訳ガイド養成講座」(全3回完結)を2015年4月より東京本社にて開講しています。2015年は全講座が申込開始後10日以内に定員(150名)に達し、2016年の募集に関しても、定員(200名)が10月の時点で満席となり、ボランティアガイド活動への関心の高さがうかがえました。

そこで今回、訪日外国人の増加が今後も見込まれ、英語を通じたボランティアガイド活動についての需要拡大が想定されることから、イーオンでは、英語でコミュニケーションが取れるボランティアガイドを育成するための授業をレギュラーコースとして新たに設置しました。全コースを通じて、訪日外国人への観光案内から、街中でのコミュニケーションの取り方、日本のホスピタリティー精神に至るまで、総合的に“おもてなし英語”の素養を身につけることができるため、受講者はボランティアガイド活動を行うための足掛かりとして活用いただけます。



千田潤一先生&イーオン教務課トレーナーによる

「英語がわかるキセキの1日セミナー」を全国3か所で開催しました!

名古屋2015年9月6日(日) / 東京9月12日(土) / 大阪10月4日(日)



ビジネスの場で英語力を必要とするケースは年々増加し、それに対応してTOEICテストを筆頭とする英語能力を測る資格試験は、雇用や昇給など、企業の評価基準として重視されています。本セミナーには、ビジネスで英語を必要としている、またTOEICテストスコアアップを希望しているビジネスパーソンを中心に多くの生徒様が参加されました。

千田先生のパートでは効率よくトレーニングを継続するための心得や具体的な方法を、イーオン教務課トレーナーのパートではパートごとに分けたTOEICテストの問題の解き方や問題集の効果的な使い方をご紹介しました。

ペアになりトレーニングを実際にやってみると、少し自信がなさそうにしている参加者の姿も見られましたが、「英語トレーニングはツライ、だからこそ前向きに頑張れる仕組みを作り、追い込みすぎないことが大事」という千田先生のお言葉で、会場全体が打ち解けてエンジンがかかりました。

「音読すると耳が開く」「トレーニングは分かったところから始まる=分かったところでやめたら何の進歩もない」など、英語トレーニングの心構えとコツをテンポよくお話しいただき、参加者は実際にそれらを箇条書きにすることで、モヤモヤしていた悩みを整理することができたようです。

参加者の声

- ・「読めない英語は聞けない、聞けない英語は話せない」というのは非常に納得感があった。
- ・「文法はリズムで覚える」という言葉が、文法は嫌いだけど音読は好きな私の格言になりました。
- ・家に帰ったらすぐにシャドーイングを実践してみたくなりました!
- ・英文を読む際、品詞を意識すればもっと理解しやすくなることを知ることができました。
- ・Part5の点数が伸びないことが悩みでした。文法書をただ読むより、5文型の復習が必要だと実感しました。

田大学も2017年から、文学部と文化構想学部でまさにIELTS、TEAP、TOEFL iBT、英検を利用した入試が始まりますね。名古屋の南山大学はTOEFL iBT2点で英語満点換算…このように、国の試験が変わる前に、各大学独自の試験ではほとんど4技能の民間英語試験がもう使われていますね。

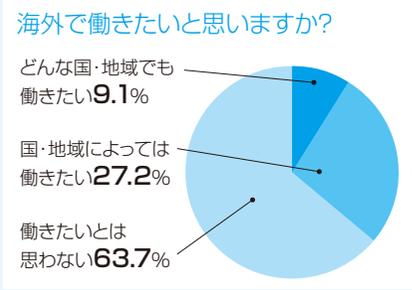
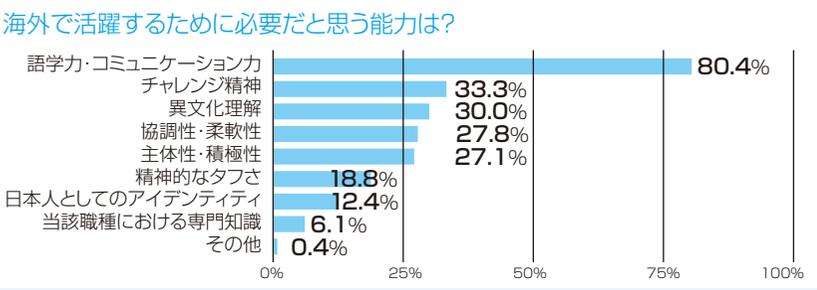
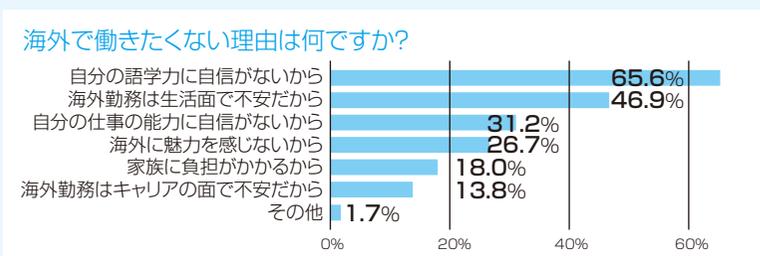
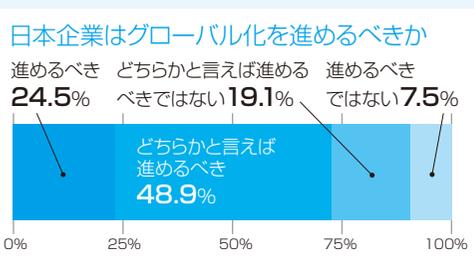
吉田：もう今進んでいるところが逆行するとはまず考えられないので、まだそうした取り組みを採用していない大学が今後どれだけ取り入れるようになるかどうかが。一方で、全く興味がない、従来通りのままで大丈夫だよ、という大学も地方にはかなりたくさんあるんですよ。

三宅：なるほど。全国で見ると温度差がまだまだあるということですね。

英語教員の英語力・指導力

三宅：先生たちの英語力・指導力についてですが、私も中高英語教員の先生方を対象とした「英語で英語を教える」セミナーを行っております。その中で先生方にアンケートを取りますと、英語を勉強する時間がほとんどこれない。先生方自身は1日時間未満、あるいは全く取れないという方が全体の約8割でした。先生方は学校校務など忙しい中で必死で頑張っていると思うのですけれども、教員の英語力に関しては先生方どのようにお考えでしょうか。

吉田：勉強という形で考えるからいけないのではないのでしょうか。普段から例えばニュース聴いているとか、自分の趣味で英語の小説を読んでいるとか、英字新聞を読むとかね。英語の勉強するんだ！と言ってしまったら、もう時間は取れない



出典：産業能率大学 第6回新入社員のグローバル意識調査(2015年)

いですよ。だから普段の生活の中に英語をどれだけ入れるか、つまり英語を英語として別個のものとして捉えるのではなく、英語という道具を使っているんな知識を得ることです。だからもつと気持ちを楽しんで、今日やったらいくつ単語を覚えたかというテストしなければならぬという考え方を持っていたら絶対できないですよ。



三宅：そうですね。文科省が各地の推進リーダーを中心に先生方の指導力についても研修をしていると思うのですが、これからどんどん増やしていく、あるいはその中で我々民間がお手伝いできるような可能性もあるのでしょうか。

か。イオンでは昨年に学校教育課という部門を立ち上げて、大学の正規の授業や、中高の先生方の研修など、今までも問い合わせがあったものを、組織立てて本格的に始動させました。その教務責任者の教師は各地の教育委員会とか小中高大から、研修やセミナーの登壇にひびきださな感じです。

吉田：いいですね。民間がもつとそういう風に出ていかないと無理ですね。行政だけではおそろく改革に間に合わないです。公的な研修機会というのは意外と少ないし、それから質的な問題もあつてなかなかうまくいかないところがあるのでイオンさんが実施しているものや、民間が行うもの

だけど「あなたは海外で働きたいですか？」という質問は「働きたくない」と言う。なぜか？という一番大きな理由は「英語ができないから」。あなたの英語力はどのくらいありますか？と聞くと約50%が「ほとんど全く話せない」と答えている。企業で仕事の交渉とかディベートができる能力がある人は2%もないんですね。これが今の大学を出て会社に入ったばかりの若い日本人の姿だとしたら、10年後には完全に世界から取り残されてますよ。そういう状況だからこそ、だんだん企業も留学生を採用する。そういう人たちは言葉の問題がない、しかも日本のことも理解できている。海外ならば現地採用です。もう現地の言葉もわかっていて、日本語もある程度わかれば、問題ない。そうなるという語学ができない若い日本人には行くところがないですよ。若い人たちの間でも定職に就くという人が減っています。フリーターとか、アルバイトで自由気ままに。大変な世の中になりそうな気がしてしょうがないですね。

三宅：私も英会話学校を運営してレッスンを提供しているのですが、やはり今の2%の人しか英語を使って交渉する自信がないというのは気になりますね。中高で英語はしっかり勉強してきているはず、大学入試でも英語を必ず勉強しているはず。にもかかわらず、そういう状況にあるのは、英語の知識だけではなく使う練習、人前で話す度胸を養う訓練ということが大きく不足しているからだと思います。どうも日本人は発音がパーフェクトでないから恥ずかしいとか、ネイティブのようにはしゃべれないから恥ずかしいと言います。そういう壁をこれからの日本人は打ち破って、ノンネイティブとして堂々と相手にわかりやすい英語でしゃべる自信が何より大切だと考えています。

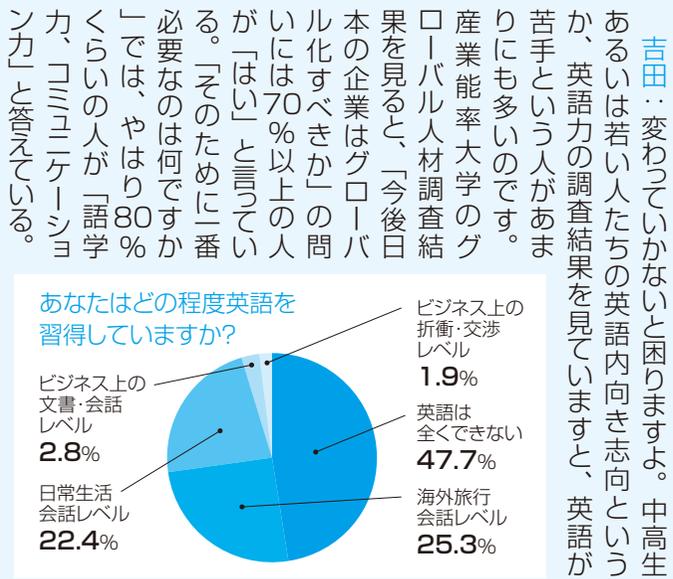
吉田：大事だと思います。
三宅：この前もあるフィリピン留学された方の

で実践的で良いものというのは、それだけ現場の先生たちも飛びついてくるんじゃないですか。

三宅：私も外国人教師と日本人教師の両方がいますけれども、非常に人気がありますのは、週2回イオンに来ていただいて1回はネイティブ教師の授業、1回は日本人教師の授業を受けていただき、非常に英語力が伸びています。
吉田：それぞれの役割がありますからね。大事ですね。

英語教育が掲げる未来の日本人像

三宅：英語教育も大きく変わっていく中で、日本人の考え方や、生き方そのものとか、そういったことも変わっていくべきだと思います。



話を聞いたのですが、その方は1対1で先生と朝から晩まで1日中授業を受けてプライベートレッスンで1・2カ月やって英語が喋れるようになった。ところが日本に帰ってきていざビジネスの場になると全く英語が出てこない。つまりストレスレベルが非常に低いところだと英語が割としゃべれるのだけれど、仕事の場で英語を使う度胸があるかというとなかなかそうではない。知識だけでなくそれを人前でしゃべる度胸がある日本人をつくるということがわれわれ英会話学校の使命ではないかと思うのです。家でも英語の勉強は一人でもできますし、スカイプでもできるし、DVD、CDいろいろなことで英語を勉強できるのですが、英会話学校に通っていただいてライブで、複数の人前でしゃべる訓練を、これからやっていくべきだなという風に思っています。

吉田：素晴らしいと思いますよ。是非やっていただきたいですね。

三宅：最後に、いま日本はいろんな状況下にあります。東大がアジアナンバワンから落ちたり、ダボス会議・TPP会議でなかなか存在感を示せないというのがあります。逆にノーベル賞受賞者が増え、スポーツ界では若い日本人が語学も駆使しながら活躍しています。すべての日本人英語学習者に励ましのメッセージをいただければと思います。

吉田：励ましというか、とにかくこれから世の中がどうなっていくかということをしつかりと捉えて欲しいと思うのです。自分たちだけの小さな世界の中で生きていくということは、高度情報化の流れにあつては不可能になると思いますから。どんどんと『自分の英語』で、別にネイティブのような英語がどうこうということとは関係なく、どんどん自分が言いたいこととか、自分が本心に表現したいことを、自信を持ってやってもらいたいと思いますね。

世界に羽ばたけ！
イーオン生たち！

My Style

仲間がいるから、
がんばれる！

AEON

世界に宮崎の花を英語で伝えたい！

現在、宮崎市内で花屋を経営しております。最近輸入された花の割合が増え、自ら買付や装飾の勉強に海外に行くことが多くなりました。もともと海外旅行が趣味でしたので、イーオンに通う最初のきっかけは、海外旅行で自由に現地の人とスムーズなコミュニケーションをすることでした。

イーオンで英会話を学び3~4年と経った頃から「楽しく学ぶ英会話」から「自分の英語を正確に伝えたい」という気持ちが強くなり、聞き取りも、即答力もスムーズになっていくことに気が付きました。

6年目の今、受講しているクラスはAspireクラスです。上級クラスになると、高い英語力が求められるので予習復習が必須になります。忙しい日々の中、予習が出来ない日もあるのですが、クラスメートの頑張る姿や、英語上達を見ると「私も負けてられない。頑張らなきゃいけない」と刺激を受けます。仕事で英語を使うことも増え、イベントを兼ねた海外出張では、プロの通訳もいるにもかかわらず、英語が話せる私に国内外の同業者が通訳を求めることもあります。そこから、新たな人脈を作り、新たな仕事にチャレンジする機会が得られたことも実際あり、英語が話せた一番の収穫だと思います。

これからの目標は、宮崎県で育った宮崎の花を活かしてビジネスを世界に発信すること、そして海外のフラワーコンテストに参加することです！



吉田 真由美 様
(フラワーショップ経営)
宮崎カーノ校 [宮崎県]

英語を使ってボランティア

イーオンで習った英語を使って、いろいろな国の人と話しています。

現在、私はNPO法人アクセス一共生社会をめざす地球市民の会というところでボランティアスタッフをさせてもらっています。そこは、フィリピンの貧困問題解決に取り組む団体で、具体的にはスモークマウンテンと言われるゴミ山にできた村の生活支援をしています。今、私が主に英語を使ってるのはその団体での活動です。フィリピン人スタッフと支援活動についての話をしたり、現地住民の方とたわいもない話をしたりと、わりと頻繁に使っています。

ボランティアをするには、英語が必須項目！という訳ではないですし、私も決して完璧な英語を話せている訳ではないのですが、英語を使えること、やはりコミュニケーションがスムーズにとれ便利です。もともと私は英語が得意ではなく、中学校の時に初めて経験したホームステイでの悔しい思い出もあり、高校生時代に英会話を始めました。その時の気持ちをなんとかしたくて、挽回したくて、結構頑張りました。

その結果、イーオンで英語力が爆発的に伸びたか？と言われると、自信はないのですが、話そうとする力は着いたかなと思っています。英語を使って話ができること楽しんでんだ！とか、完璧な文章じゃなくても、ネイティブの人だつて笑ってくれるし、友達を増やす事ができるし、自分の伝えたいことだとして、まあまあ遠回りになっても伝わるかも思えないことだとして、まあまあ遠回りになりました。

世界中で英語を話す人がたくさんいて、その人達と話すことなくコミュニケーションをとって、ボランティアだけじゃなく、いろんな活動を通して、自分の見解を広げたり、みんなにとってよりよい世界に近づける為に、動いていけたらいいなと思っています。

これからも、自分が伝えたいことをさらに伝えられるように、また、目の前にいる人が伝えようとしてくれていることを、さらに理解できるようになる為に、英会話の習得を頑張っていきます。



杉山 遼 様
(特別支援学校教諭)
京都三条校 [京都府]

目標は、英語のプレゼンで正確に伝えたい！

私は、航空宇宙機器メーカーで働いており半分以上が海外のお客様です。その為、取扱う製品の図面や仕様書・要求規格など多くの資料は専門用語が並んだ英文です。学生時代から英語が苦手であった私は、この職場環境に慣れるまで苦労しました。そんな『読むこと』と『書くこと』しかできなかった私に、海外のお客様への工場案内や監査対応を任せられる事になりました。お客さまの前では準備した原稿を一方向的に話すだけでなく、目の前にいるお客様からの質問に対する回答が必要となり、『聞く能力』と『話す能力』、つまり『英会話コミュニケーション能力』が必要とされました。また、普段は日本語しか話をしていない上司が、海外のお客様の前では流暢な英語でコミュニケーションしている姿があり、英語で意思疎通ができないと「信頼が得られない」「仕事を任せてもらえない」と感じ英会話を勉強しよう決心しました。

しかし、私が最初に困った事は英会話の勉強方法でした。上司に尋ねるとラジオで耳を慣らすなど努力されていましたが、私は何から始めれば良いか?どんな勉強方法が良いか?わからなかったので、思い切ってイーオンで学ぶ事にしました。

イーオンでは、レベルにあった勉強方法など丁寧なアドバイスを頂ける点、振替制度で時間があるときに集中して勉強できる点も、とても助かりました。何より明るく迎え励ましてくれるイーオンの皆様のお陰で英会話を続けて学習する事ができました。更に、様々なシチュエーションで他の業界で活躍されている方々と英語で会話することで、英会話能力に加えて、コミュニケーション能力も培われているように感じています。学びはじめて一番の変化は、何とか自分の使える英語力で相手に伝えようとするようになった事です。今後の目標は、英語でのプレゼンで自分が伝えたいことが十分に伝えられるようになることです。なかなか伝えたいことが上手くは話せないですが、お客様の意見を正確に聞き取り、少しでも正確に伝えられるように勉強していきたいと思えます。



宇高 顕績 様
(会社員)
福島校 [福島県]

外国人観光客のガイドとして活動



近藤 佳宏 様
(ボランティア活動)
池袋本校 [東京都]

私は4年程前に会社を定年退職しました。自由な時間が出来た為、会社勤務時代には難しかった長期の海外旅行を何回かしてみましたが、現地の方と言葉が思うように通じず、折角の海外旅行を十分に楽しむ事ができませんでした。そんな事から、英会話力を付けたいと、約2年半前にイーオンの門を叩いた次第です。イーオンの先生やスタッフの熱心なご指導や的確なアドバイスにより、今では海外でもあまり会話には不自由しないようになりました。またクラスメートには若い方から同輩の方まで色々な方がおられますが、皆さん向学心が高く、その姿勢には頭が下がる思いです。時々クラスメートと教室以外でもお茶やお酒を飲みながら英語を話題に楽しくも有意義な時を過ごさせて戴いています。

以前から何かボランティア活動が出来ないかと考えておりましたところ、TOKYO FREEGUIDEとイーオンが提携されたボランティア通訳ガイド養成講座が開設された為、早速受講し、今年8月から外国人観光客のガイドとして活動を始めています。今までにイタリア、イスラエル、ニュージーランドの3カ国のゲストのガイドをさせて頂き、不束ながら日本の良さを紹介でき、楽しい時間を共有できたと感じています。但し、日本の文化や習慣を明確に英語で伝えるには、もう一段上の英会話力と日本文化の知識習得が必要と痛感しましたので、今後もガイドとして恥ずかしくないよう精進したいと思っています。

夢を叶えさせてくれたイーオン



小川 紳一 様
(小学校教諭)
富土校 [静岡県]

公立小学校の教諭として働いています。イーオンで小学校英語指導者資格の取得ができることを、ある日知りました。幼いころから興味があった英語の学習を始めるタイミングであり、新たな資格を手に入れる大きなきっかけであると感じました。小学校でも英語を教科として学ぶことが必修化されようとしています。

現在は「外国語」として英語を子どもたちと学んでいます。外国語活動は、英語を書くことや読むことができることが目的ではなく、コミュニケーションを学ぶことを目的としています。常に自分自身のことがトピックになる唯一の教科であり、普段言えないようなことやいつもは聞けないことが外国語ならば聞くことができる教科でもあります。こうしたインタビューや交流を通じて、友達と話をしたり意見を交換したりすることを通して、人と人との繋がりを肌で感じる事ができるのです。私は未来の子どもたちにとって、上手にコミュニケーションがとれる能力はとても大切であると考えています。また、小学校英語指導者資格の講習で学んだ「フォニックス」を意図的に取り組んでいます。「c」「a」「t」それぞれに発音の仕方があり、繋げることで単語が作り出されているという概念は、私の中で大変画期的な思考でした。今後「フォニックス」は学校教育に必要な不可欠なものになると思っています。

現在は自分のために、自分に関わる子どもたちのために英語学習を進めています。英語を通じて自分自身を啓発し、自分の思いを円滑に伝えることのできる人間に成長したいとも思っています。

最後に、「ニューヨークで本場のバスケットボールの試合を見る」「英語で外国の方と話す」という古くからの夢をかなえさせてくれたイーオンの先生方やマネージャーの皆様にご感謝の言葉を贈りたいと思います。私の可能性を広げてくださりありがとうございます。これからも頑張ります。



富永 敏彦 様
(歯科医院 理事長)
徳島校 [徳島県]

再生医療を日本から世界にむけて...

私が英語を真剣に勉強しはじめたのは、2009年フロリダでの学会発表がきっかけでした。

当時は、発表内容に対する英語表現がしっかりできていれば、後は何とかなるといった非常に安易な考えだったのを覚えています。しかし、学会では専門用語が飛び交いますので、発表は何となくこなせたのですが、それ以外は燦々たるものでした。

帰国後、自分の英語力のなさを痛感し、多くの教材を買い込みトライアンドエラーを繰り返しましたが、どれも長続きしませんでした。ただ、ライフワークである当院発祥の「骨再生療法」を世界に発信したいという思いから、手探りで毎年のように国際学会での発表を繰り返していました。そのおりに、UCOLAに自費留学している先生と出会いました。彼がTOEICテストをクリアするためにイーオンで学んだことを知り、2014年イーオン徳島校に入学しました。

徳島校では、先生方はレッスンだけに留まらず、家庭での学習方法や学会発表スケジュールのアドバイスなどをしてくださり、何より自分の事のように親身になって相談のしてくれました。先日、PRESIDENTに「イーオン教師は受講者の有力なサポーターです」という三宅社長の談話が掲載されました。私にとって、「先生方は傍らに寄り添って励ました。私にアドバイスしてくれる素晴らしいトレーナー」であると思っています。この数年で、本治療機は日本とアメリカで発売される予定となっております。残された時間はあまりありませんが、夢に向かって1センチでも近づけるよう、日々の英語学習に取り組んでいこうと思っております。